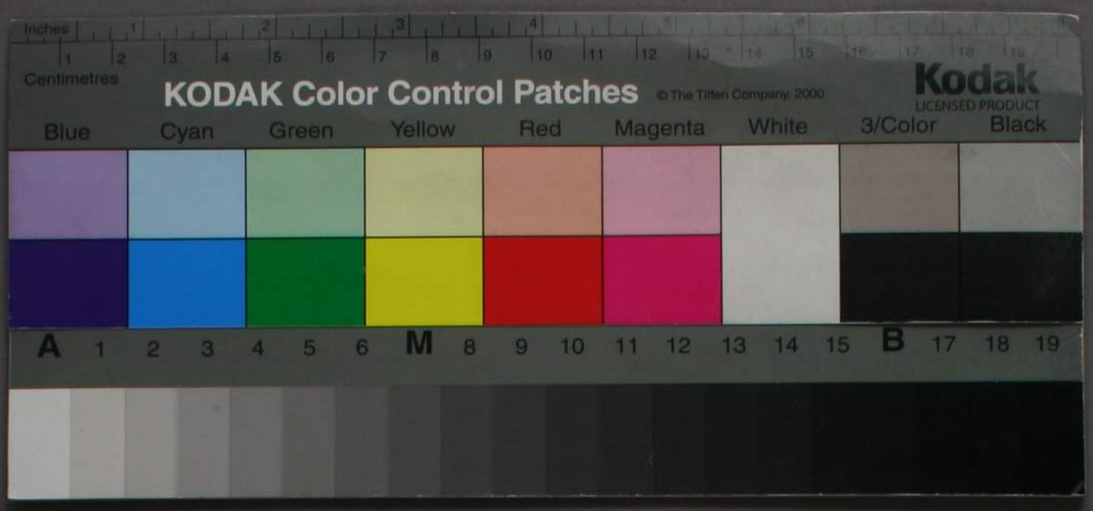

Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

75
150

刀剣鑑定

全

宮城県図書館蔵書

宮城県図書館蔵書

目録

一刀の上中下之事　一地鉄板目柾目之事
刀之きれと吉凶事
一刀記物　一ゆらめ　一ゆやき物
大方刀の國々と吉凶
一京　一大和　一河内　一備前
一備後　一備中　一備前
一筑紫
一他国刀の分京
宗近一　若家　國行三　来國俊四
来國光五　来國次六　二字國俊七　彦包八

弓戒九　信國十
同栗田口之分
藤林十一　國吉十二　久國十三　吉光十四
國綱十五　進藤五十六
備前物一流
行光十七　正宗十八　貞宗十九　義弘二十
則重二十一　廣光二十二　秋廣二十三　戸二十四
長谷部二十五　長義二十六　兼光二十七　元重二十八
兼氏二十九
大和物之分
當麻三十　則長三十一　包永三十二　保昌五郎

千手院 五七　兼吉 五五

備前物之分

安綱 五六　包平 五七　助包二人 五八　正恒二人 五九

國宗 四十　守家 四十一 付真守　雲次 四十二　光忠 四十三

長光 四十四　真長 四十五　景光 四十六 付義弘家　則宗 四十七

助宗 四十八　吉平 四十九　助房 五十　吉房 五十一

助真 五十二　景秀 五十二

備中物

家次 五十三 行山　青江 五十四 丸

備後物

三原 五十六



豊後物

行平 五十七　正恒 五十八　延壽 五十九

伯耆物

真守 六十 付安綱　法城寺 六十一

刀の地のとりわけて上中下とさだめ事

一上地い　ふかく地えあり

一中地い　ふまく地えくろ

一下地い　ふまく地えさえ

地に一地ともに何もふかくひろひ白くきらひ乃ごと

ふかく一切わかるへくしてを地にくろふかい上地乃ごと

をかくみてもりそくけさとなりてくろ

地名よりこれをいふ事なれば
ものの名前一のくらいなるべし

地名より板目板目といふ事

一板目とてはいとこの合目ともひとつにみてひとつ
ひろく地名にもいとくらいなるべし

一板目とはふたつの合目とひとつに板ふしわたて
のさめのやうなるこれよりあるべし板目

板目のふとくなるは板目一枚にもこれ
ものゆゑとくなるべし

板目にもこれにいはゆゑ物なるべ
このこれの地名にもつもりなるべ

ちくとこれをすなれば
ようなるべし

ものの名前

一口に物の名前中一にうはめとていふわるとは
のわるにはよろこのものなるべしこの物
よりはよりくわるし沈香よりはくらべなるべ
物なるべし地名にこれをいふ
わるべしこれをいふ
みえもしられなるべ
みえやうのもあるべ
なくはやうにしてはんゆう物なるべ

上ものの中をかなぐりたるもの
ゆかりなるべき物なり
一もうし物の中是ひとつ事わるとは
のかるもの白紙をもむくもの
きりこしをみえもむるとてもくみえて
わるもわるとゆかもあえらぬもわるとゆ
ひよみでなるものをくるみすうわるも
てうぬぬいそくるものなり紙をもかくるん
もうぬぬいわるべくそくそくしたのみ大略さん
うんよ燒くる物なり是中ゆよ大とへ
くるるれいすりあり物をくらく燒へしさ

上ものやうなるものをくるみ紙をくるるが右の条ごとく
なりしかるとも何ぶんとも一条二条なれるすいわる
なりしそ口結ばれ
湯ちりひとつ事是ハ紙の燒しい
やさらへ重て燒なれをみすいてしめ
のぬのをのこるもうれをもこ重ぬそうる物
ぬ二重ぬのくるさいさひよ地なくるさなると
さ所やうふみちるくよんえきくいたりこ
もめるもそきさるこ二重ぬ地をへきそて
わるもなる地なり地ぬのをもうれやうふなて
ものをめえさるものなると銘中ゆ

えだのうらわかい芽二度やさしきもの湯に
ひたしいふなるべと芽と世ゐるようにしし物のごと
ゆうすわるもたゆみなく物なれども右よりかく社
遠うれわるべきもれなるも
かやけ物の事ちきれ火よりあるべしてやや
の用よ火へとおかれ芽いかゆ池の久のう
もの時の久よなりあえちのうちへかたとへば
おうろ月和の外とるとくうばんくあ
うとふうとうとう物なりとうとう 鍋塗物大和
物るとれ下他ともよ右のんよりそきたるか
外うるとかうとそれいとたうとう白くうもて

みうひたうとうなるし物なりかやけ物いたりさし
外ふうなむんあるめるかあ遠分あ下ちう茶
作まいは世ゐ池わく月たうれなるとるくうう
をとりあるうとうて芽いなるひ無わるを用わ
ううれまいもれも見る事なり月利の上
ようきすとるうるの月右よわるし
わるれ物をし物湯ちひかやけ物をの事
あるもひきすとうるくるうるくいの月れ
うるわるの右ゆしおるくいの月れ
んなるるかもるとうとうとうもいれか
ひうもなる

大方刀の國くにぶとと所事
京物の事刀のすくれたるかねもちんあり弓とわ
わるるもの大くにたるいまれなる脇さうのもの
をさしうちさそるもの大脇さうのむ
称なるものいろいろのよき中ものと刀脇
さうしもよいものもちんしやうなるものそき
やう地なる拵肩あくいつものもこの所やう地多
しなくうしやうしやうあかねをまくぬかちんより焼
出とまるものさしなるものはよしさうされ
うう来の数の刀無をもこれ称ものか
あくいかるものもみられうおしいかもやうし

いつかもちんしやうしゆかまくうへのもくあえわさ
やうかたのうへ刀矢脇むしの焼るの京物の見
所なるものうへかたのうしかりの物のるの極りんしやう
にせけくそこへふくの海さしなるものもくの数と
なくうへのくものもしくもをあるものうしのの物
同栗田に物のるの刀脇さうのもるのもくされる
ひあの風拵いつまものも大方来一同さなりうへ
むしのもかぬくうへの中の筋と来よ
つものひろくすうなるものもなおそきものく
まくよのなる物のうへのいよくの白く地うる
一いかこのやうかうくうそこまてすと

きく物なれば、さてもみえたりとも京
物にもこゑやうの物にもわたくしの物にも
うんなりわしの物にはみえのうちのようにひよ
く来たりもせんとあるに同り物も一匹
てきとんでるのみく京かりとも一しかを
るつくりのもせるに為者をかう様の心
りらせ法をいたしへ力のすくるひつき
をひ何も大さく京物と同をなる但様
まうつくうへしかりもくふ切えみ
てをの記をへ世をもわきも大をなる
きまれなり服をいをうしめすをいをうむ

きをうをいなし但うよくひるくおくしを
のさ但をみ月せをるをうもわ物へ何も
ひひのひの京物にもみくうむひをを
ゆもをなりをうなしうう千年院のをれい
りりのもわくるるし同そをやう地
ろく祇園みくこゑやうを地名京物にも
すぐくまくひるを名あるをくきをひめせ腐
ともわくをうをあるをのをうを合
よ記物をわみ見もさ記より焼出をを
つををの焼出をかをくを記沢者よ及法
但及いをうをらのうちの及せうひをを記をを

ゆしは天龍焼ぬかた月ほうへつくるわれ
ものは物しるく一張のむしろなるを但千手院の
なるれてんうい物のすあるをとりしあくうへつを
ゆゝ何もあえわさやうよあいしり分ようり
のうらをけめれしくあえ松ゆゝみすくあよ
も訛無もあさうひけつをを地の肉へあえをを二
重あるをも大和物松ゆゝ又乳あのうちへ地さ
ゝ入をを屋ををのしくなるあもわを同りり
物の事極りんゝ湖ちんをもいりてうら
よあくなくをうくるを物をり
南物の事ゝ大和もあくなるれなる松より脇さゝ

つをををを地ををを松貝あくを大方出来やう
あを屋物なるを但脇浦わをを屋よりあをを
出をを紙をも打わりゝみをれあををを脇前
茹先をを物入ゝ一丈をなをのをくを出
をををわをを屋をも南のなをひあゆさを
ひをくをくををれの是をを屋をを屋
物をりあをををあををゆゝ屋をををくを
をををあをわをを地ををを屋をを京
物ををれあをゆゝ是も地あのををくを
をれりををやうあいをもを地ををを
をををををを屋んあを南をををへゝ出

弓矢のうれわるとて人の為を所の時
山と月とのあとくくれやうふんゆうんわるとは
恒例

一
強盗物一流の事刀脇さしあるとて何もて
ひろよりみうすめくあるよりくく刀い大切ちよ他の脇
さしあるとくくいかなる何もこれもみくいかりよ
く中のすちひろ組刀無はいりもむひまて
しにきは脇さしのそるふロ侍わるを無分力
の切ちんよりたるを物なりきくいかと大切ちを
侍ふ他の脇さしもそりうりうりちんちうれい
そりもちうなるを入わ切ちんよりたくれ脇さう

あるとちうりうしくなるとたくれ脇くくるよ
一ちんれの用無月大中乃二月わると正中乃侍
くるとくいかは侍くいなし　紀光　正宗　義弘
山三他なるを法ふ身ふる何も大の他ちなか
組侍くるとるくくは人のうるくるくるくい物ちれい
自他もわ遠もわ侍へき物ちるり出来侍地し
を板用みくみいもも切ちんちり侍出しうい
ちうれの身侍くくくくくくくれ礼ちは臣
ちを侍くむ身のわるくくをえわるやうおに
り組身の風情他前物なくりみくくくくを
ちくる侍みいあ他へくくを同りり物事抽ちん

宇治にんそくもせのひてまうしたるかハさを
物しもとめ給へくはしくはんそくかりすー
一御前物の事一日のもちゐ物〇〇〇〇
つゝみわくいやしくしたいわもうしむ〇〇〇一切
わうしうしも又服さいの御おん物上ゑとりよ
ゆ千所ハ御きたりの自然わまこいたゝよりしら
ちくり日の地ゑもしくふおわうへ一ゑ木程
地ゑゑ大路板目たりの組光忠の一たりしい松目
たりのうしうしひ事わもえい地の名ゑり
きうろくうりゑてのゑてくなの地ゑよむ
わるゑうるゑたりていんゑとう

ら民御おん物無代ゑ御前ゑゑゑ
ふたりも御ゑゑ地の出来物をすくゑ
京物大和物ゑゑ御おん物無代ゑ地の御ゑ
ゑゑゑふたりも御おん物無代ゑゆうゑわる者
うゑくられゑわるゑたりの御の横やうゑ
きゑゑゑも横出ゑゑ訓ゑゑもゑ
ひたりくうゑゑもゑ切ちんのみゑ菊光ゑゑの
四代ゑりゑ地の御ゑ地ゑもいやしうゑゑ
ゑもゑくうへゑもたりの御ゑんゑゑも御倉物ゑ
とりゑくゑ無代ゑ大路ゑりひゑゑ
但古御おん地なゑ無いゑんゑゑられて

抑古備前おこりハ一条院の御代の三条鍛冶の
鍛冶にもおとるましくハなし又其外の
やうなるよく似たるもあり共に風情さ
あまたあるも其やうなり見ゆる物なれバされバ
此作く安く此作のあるハおよそ備へしといへ
そのもの出来あるひハむかしの風くあり
是ハおさふね物無ハなしひとハなすしといふ
されども作ありて自然作ハあるへし其外
近代の下作とも申は又思ふく無之湯も
しるしをあらはし出来候さまく同前の物
のうち御作がんしなきともにひろく候へハあさ

く焼刃見えもわろくそのひかりて
いかものひなくやしく見ゆる物なり
右京鎌倉備前三郎のうちなり

作者の事

一 刀脇さしのうちに鎌倉もよも又備前物也
見しまた二つのうちと作り申切もありて地さ
其の外ハ大さ備前物と見えて無其のあしわ
備後備中国物と云へし但備中物無
地あまた備前物のうちのなきのなきハ
くめしをあまたいう物なるもさるもいへくつ
見え無はなくきハよきもちて見ゆる物なり

是もそきぬなくすくなし又丸さうるひあり
みしなきのよくみゆるすらわなはずおほし偽
後物歟片右のんは一切わなはへつくれ又刀のもとうさ
き偽後物ハうたるさきもくみゆる見へよせむひろう
する他の物なり
一刀脇さしのもとうさ丸の風情無之のんは京よる
きなく地もうさハ板目無くみえさ見えハ縮
肯物又ハ作くし物とんと見へし但菊地物ハ
地もうさ毛ても京物と同きなれ強よりも
来兄粟田口物とも見えもみえ間遠無し
くわうく見ゆるを延寿也見ゆるすみくへし

一刀脇さしのもとうさ丸の新大窮偽おひきなれハよ
むかしむかしの作はわるく趣きハやしく見ゆ
て無之のんは地もうさ鍛金てこれなるは小国物と
心得べし但江親子ハかうるへし趣別右無る
所よ地遠しまき佐地とも於ほしきれハよく
見筋みけるへき物なりとも又と此国不まわるな
是ともちん頭のうえハみお遠わるへうるもそう
是ハ国よる鍛冶わまそいわなはと云ふとも其国
不見水のつけるまくのちうひ無くみ宛のお
遠わまくとも刀脇さしの姿鐵のうちひ気
の焼様右の京鍛金偽前式三筋のうき

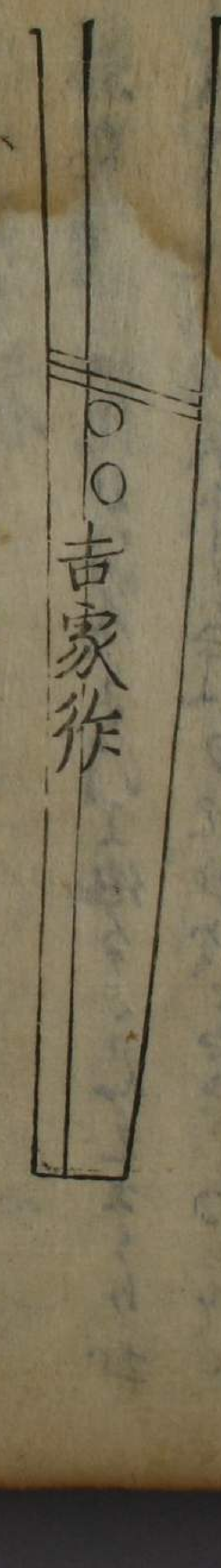
紙もかるくあつく摺を筆を紙に出すやうに紙に
なりて摺のかたちもとりてきれいなる
紙付さて二川の地にてかく大方風
とりかたち同じ伝の紙とも世にくさく紙
を見分へきなり大やうにかはりたる
やうに紙着よんと作よりかく摺つるなり
らひもかるくあつく出すやうにかたち
住西紙もかるくあつくかたちとかたち今
ゆるくかたちなり色井一のんりちなる
紙作のかたちひのう紙刀服指の袋入紙
その扱用摺右よりかたちかるく

あつく大方おきかたち合わせんくに書ものを昔より
自然おのづから遠ざかる紙にかるる者なり

京物之分

一宗近 三条住ス 此紙刀はかひのまに紙をとりえたり此
まやう地板用文字紙白紙をきる作
みかたちかたちこの白くよりかもわかくして
まやうもみやうにやうに白くみられ文のられ
みをかたちさまに何もあえおかくちんに出れら
ものなり

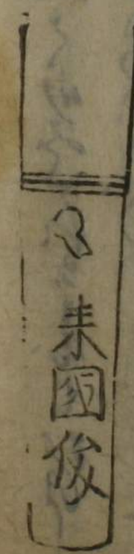
一吉家 宗近子 此作の刀はせまくひろく鍛村(?)し出来やく
地はこまやかにて地色青く又大肌ひろくみかへの
出来足を入く焼出え村し此作出来ちらかへすといふ
くの縁家ことも拵もありかりのふしき中なる事
又此作銘を打くりかへし銘出はなくしの極の内なり
もけ鍛ときもなきなり




一國行 此作の出来格地はこまやかに地色青く
あをくわるし又ちかて大肌ひろくすく又なれ地あり

其下は宝之のくせみられまれ出ても折れし見られつ
此のみられ肌もあると乱のちらのわしところかたかるや
ちみ見ゆるく切先のうちは又すくに焼おししなる
紀にるりあまくさへりとすくなく京物の肉ようらら
のうちはせかもりて出来物なり何もむかれらんや
くらすれは國行の見所たり肌さしは一切まれなり
又此作来太郎といふても来の字はなき國後なり
出来もしもうなり

一来國俊　はゞ広く反り高く中鋒詰まる地鉄板目やゝ流れ肌交じり地沸厚く付き刃文は大略のたれ調に小乱れ交じり所々に金筋入る帽子は乱れ込み焼詰む




右の如く来の手行も世新く中とあらゆる審

来國光　國俊子はゞ広く反り高く中鋒詰まる地鉄板目やゝ流れ肌交じり地沸厚く付き刃文は大方父に同意なれども帽子は乱れ込み焼詰む

一説に曰く國俊子は同じ國俊なれども同じ様に新々の作なれども新々の作なれども

右の如く来の手行も世新く中とあらゆる審

○未図光

はぢの実のきはに付もゆきとゆきの物ゝ口傳ゝ

一実図次　はぢいかわらこ〳〵ひろく〳〵やうにぬ
ぢのわらわ色と脇こ〳〵中月紙をかくるもわるへ〳〵
出来物地こゝ付もゆ京物い極月なれども山ぢの実
中ゆきゆきゆゆ物月よきゝひ地ゝきくこ面やうか
てぬい大脇ひろくこゝ大のゝれ紙よ玉及おくく
いりもゝれやうよぬゝゝるもえあるやうふゝゝこ
ゝれぬりんぬんゝゝゝれて物ゝ何もゝよう脇

焼物なりめはぢ地ぬの実又りゆ面ゆくゝれい絵入ゝゝ
ぢゝんえ刀脇ゝこ〳〵ゝゝゝ中人月并い京物ゝこゝ
お遠ゝるゝはぢ他のゝんゝゝ

○○○未図次

一二字図次　はぢ出来物地ゝゝのゝもこ面やうふ地ゝ
ゝゝゝこんわもて月ぬい大脇大乱ゝ字ぬゝ物て
ゝりゝのゝゝれ刀脇ゝ〳〵ゝゝゝ脇ゝ
出来物なり但脇ゝ〳〵の丁字ぬいなゝ又カゝ
ひゝゝゝぬゝゝはぢゝゝゝゝ

てせがれもみそうに物ゝ無系刀にてきりとの
みとひろ〳〵焼とりんてんてりのはすみにふられなさ
のこみのうんさう物ゝ何もひとりやうにみやく
ゝ光紀の月二重ゝ

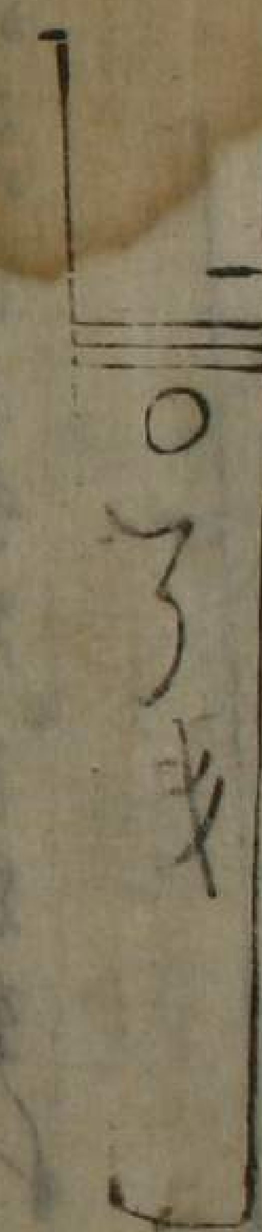
一光包 國俊作 ゝ紀脇ゝのまゝ出系物大方来國
俊の風情ゝ地文國俊ゝもまくそこまて
て一ゝ〳〵こあやうゝ白くひろすく
ゝて賣ゝん栗田口物のまゝくそこあやうゝ

ゝ一ゝ出せゝ物ゝくゝもて國俊ゝてゝ物ゝ
一位弱者ゝとまくゝれくいてくゝ物ゝ但海系ゝて
長光ゝ弟子ゝ何ゝゝゝ地ゝゝ又ゝ風情景光
なくゝゝくゝ孔て物ゝ賣ゝやゝゝ系物ゝ光
と海系光包ゝ云なゝゝ力ゝれゝ

一了戒 國俊作 ゝ紀ゝ物系物光ゝ國俊ゝ
ゝゝゝゝ地ゝゝゝ賣ゝ又ゝゝゝ
ゝゝくゝゝゝ國俊ゝゝゝゝ

もろくいまだやしく見ゆる物なり同筑紫了
戒の出来ハ大略乱刃なく焼もほそくちいさい
てき刃のこゝろやう刀のやうなる備前物のこ
とくなり但ちかごろ焼のかへりそらるへき物なり

一 三原
初代正家此の刀脇さしのやうなる池田の桜同
柄同二代目より後さまざま但大切先脇刀ハまれにて
出来細くハ大略すぐ刃又ハ小乱なり身にもみへ
きぬ地とも云へるやうなる見て刃の道具なり




からくまじ但大乱にて国行のやうなるもあ
り継丁子刃まゝあり二ハ作いかし同二代目ハ中玉
も上手なり地さゝ海かふく焼わるやうふ大乱
とは焼て来国次よのかる柄同又三代目出来ハ大
略ひろすく刃無く作ししはりしくへ見も三代目より
打ち物とこのことあるも刃縁成らずとおもふ上
ともあまるも出来ハまくれた梅かんしるるともあく
少しひなく見ゆる物なり但二代目ならず出来ハ初日
すくまて見らうなるも打りし又三代目ハ定国と
銘を打なり後ハ是も信国と打なり

信国　信国

粟田口物之分

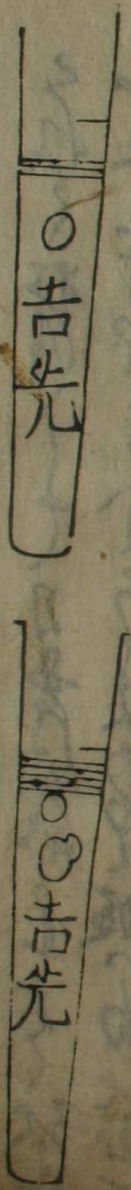
一藤林國友　此作の業格地さいかもこゝやうに
地名すきそ書く大略すくなりそなしまつ文
字もかつ組刀あり又所わく是へて就さ所しを何も
數こゝやうの業書し業子物なり

一國吉　此作の業格地さいかもこゝやうに
書く中金あり黄粉地にあり
組すくあり二重あり此作の業格

何もかしこくこゝやうに書くあるもあるくい
かゝ又京國吉は地さかさの黄もあり沼
國の字ようとくのあるくよ新くに口傳あり

久國　此作の業格地さいかもこゝやうに
地名書く大略中書くあり黄こまや
ちんかもの組刀あり就あり大和物
かくのこゝく焼あるやうよ見えく
ひとまくかゝ

一吉先　隔指ノ寸ニ成ル事ハ其地ニ
寸ヒラメタルヲ○ト板目ハ横ニ成ル
板目ニ成ルハ是ハ其ノ品ニ寸ヒラ有
紙ニ成ル板目ニ成ルトモ板目ノ作
ノ寸ニ成ルヲ○ト云ハモ横ヤウニ地
ニ成ルヲ○ト云ハ横ヤウニ地ニ
黄ニ成ル横ヤウニ成ル板ノ横
ニ成ル中ニ成ル




ヲ作ル紙ニ成ル横ヤウニ成ル
ヲ○ト云ハ横ヤウニ地ニ成ル
ヲ○ト云ハ横ヤウニ地ニ成ル
ヲ横ヤウニ成ル横ヤウニ成ル
ヲ横ヤウニ成ル横ヤウニ成ル
ヲ横ヤウニ成ル横ヤウニ成ル
ヲ横ヤウニ成ル横ヤウニ成ル
ヲ横ヤウニ成ル横ヤウニ成ル
ヲ横ヤウニ成ル横ヤウニ成ル
ヲ横ヤウニ成ル横ヤウニ成ル

一國綱　此作乃出来様ハ小のたこすやうに地を
まつく見えて板目よく小沸まじりて
くれく粒立して刃中ハ物ましりて砂も
出二三寸ほどうへはまり見わる縄ハ白絹のごと
まるくぬけ沸見えてわかりよく見ゆるなり
尖ぎなし出来の様よきこまかに見ゆるなり
此作乃見處なる細脇ぎし中ほどなし又身乃
幅ハさのみ広くもなく中ほどまでのそれなし
まれなる物打乃刃ひろまりておちつきあり
ちいさく丸肉すくなきやさしき形なし腰
さしハ大脇なく刃中くにしの薫一ゑあり

反りよくはくれぐ板目しまり粟田口物乃肉太く此作ハ
薫かわりて見ゆる物なり又脇ざし中
大脇なる處ちと切先ちり多し鍛乃打様縄也
此字め此作りて見ゆる物なり又此縄をとる
手法ハ海老又ハ菊池物なり太刀二字ハ内脇
さしハ大脇なる銘あり

惣じて粟田口物わかちにくきものにても刀脇ざし
乃しなく地刃乃出来中心の風情までも肉も

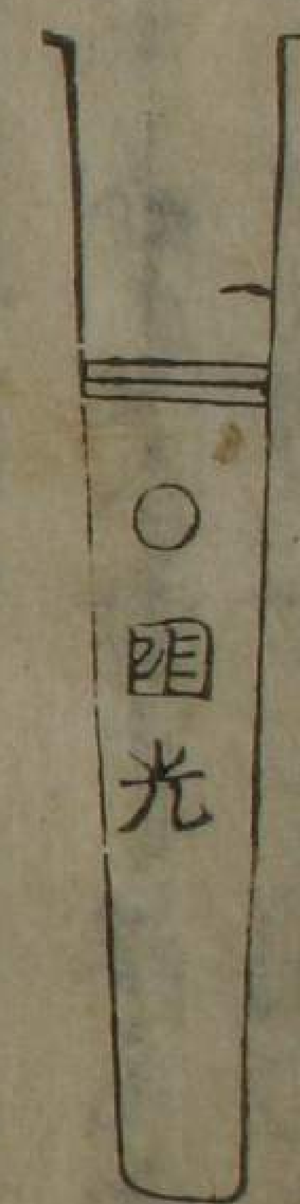
つとうけわたすなり但刀はかたなの法
つとわ色〻さまざまの出来いかもあるなり
ものんくこゝろ得べきなり

一流の事

一新藤五國光　此刀あるべき物のこゝろめなるべ
しとも刀鍛さへの物もとゝ地とゝのきらひあり
風情何も栗田口物のうち也とゝ但もとゝ
はりうちまれく中又此の鍛さいきたる大
つくりなく自然のうちもとゝもわるし然物なり
も地とゝ地とゝ地とゝ地とゝ地とゝ

わるしく刀鍛さへ美鍛すくれるゝ但此の
きれわかなるもわるも何も賞こゝろやうなし
けきるくゝろてゝくゝ中あくゝ
此の見所なるゝ鍛さへ鍛さへ
おくゝ極とゝくゝくゝなるゝ
ゝ同こゝなるゝ栗田口
きゝ見こゝなるゝ同二代貞い地とゝ
けゝしゝもゝ
ゝわくゝ
ゝ但ゝ國光と
所なるゝ刀は大鍛二字銘ゝ

但長船(おさふね)もあるへし

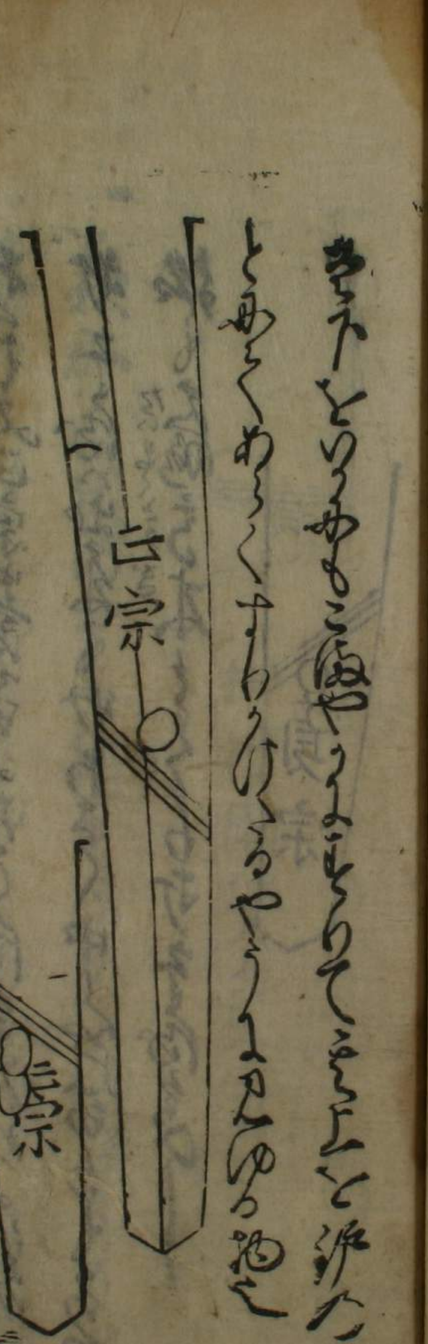



助光　助光

行光　此作より刀脇さしの出きるはしめなれは
ゐにくし脇さしの刀ありて此末相地ありのまゝ
をこにやうは地鉄よく大肌のみゆる又きめ
ひろすくみも焼煮(え)もうすくはゝし刀脇指
とも其沸にひろく焼なり太刀も細
其外地なりさらになき也とも地はこ一かた
にほひやうは煮もすくなく多く刃の匂(だ)太さ
ちやのはしをとらし只一文字は見すに有たるか
又さるは物あまたは大進房切といふなるか

正宗　此作の出来相地よこにやうは地ひろき刃も
あまたくまなく刃のんすくわくはほくくせやうわ
てあるへしにほひくもんよりものする物のうへの雪
のかかねかの眺(ふ)情(ぜい)めてさうしめさ星(刎)の白
の焼(やきて)よ見らく刃のやも白く大肌のあらはれみゆれは
あるくみをんさやいえといふすあるは是は刃の人

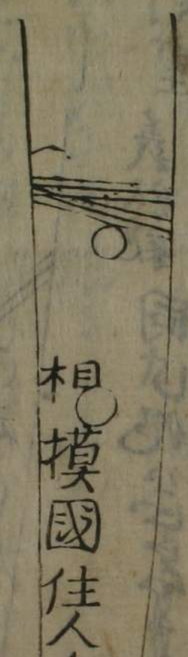
まことのめでたくなるすちあるを口伝多く何
湯とうるを打ひく所に脇さしまいりしきりよ
かるべしをめあるべしいつれもいかさまに
しるまるまるくあゆる物のわりー出えさるむあ
らハ不審あるべしー口傳なり但とくみも多
しかもし他すくわくしてなるゆへみの用捨
一様よいたさまるさるを他の品も切のわれ
大進房切くいかるべし他大勝ひ紙なるゆよ
の他りあるれるはまーしたぶまんしてうる
まるくふ但すくあるとかるべしとかくるまも
中くやもるもみうはやもるいやもるすあるを品




きるとりあるこあるやうよりてそうよと沢ハ
とあるくあくすわるやうくるんゆる他と

一貞宗　じ他乃出来他池とうこあるやうー池多ふ
色ーも大勝のくれみくれよ湯くるとわいくるあ
つるくー奥あるくやうるるくたるくー宗ふ乃出来
同意なり但他多ふるとあがそうんいるべきの行あ
わるもるくるなーくじ他乃刀よくー大勝二筋
他とくー限さくー無ーくー切くるる

一鍛冶ならびに同じくこれ[illegible]
なり同中にも大方父子兄弟相伝中にさぶ[illegible]
[illegible]正宗[illegible]
[illegible]山城の[illegible]
[illegible]相模国住人貞宗
なり但相模国住人貞宗と長船と新たに[illegible]
[illegible]正宗[illegible]
新たに[illegible]
[illegible]




義弘　山城の出来物[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]正宗[illegible]
[illegible]同中[illegible]
[illegible]正宗貞宗
[illegible]

一則重　義弘親　同じ作にて正宗子なりとぞ

一廣光　正宗作　此刀の地鉄地景板目まさに蘆へ
わたりやうに大肌ひろくはだけ湯とおしやう
うに蘆をたてたるやうにして刃文もたかく
但すこしも自然わたり行とも刃うへよき
そひのたちにて少わたりくんでいろ一正宗作
なりとぬくもの出来いかるもとんぬる物し
此作ちかいまれなる自然みたくはかりんし
掛りうち行も切物ならぬ隔指ふい海
年掛うたるうちし此作中に正宗作
えらく此の業お遠とおもふ事一尾に其
子の折をおもふ海とおんのうに我折うち

いつ文橋ちの正宗う廣光元ちの廣光とお
たちもあるも見も出来おうく紙も手ふりの
色紙物のうち刃肌うしーもの二字紙よりう
たちうしんたち

秋廣　貞宗作　此作ちかいまれなる地景板目まさに蘆へん
せやうに刃のうれ乱れ湯とうるおしく出来
五刃ありとん肌ひろくたかく出来
きっとく蘆とわるも焼すの大方廣光の

出来る同意なる組紙の面にうつし
ぬくすんの面やうにうつしんのいちう秋廣の内んむるわ
ひんぬきあく就ての口伝くり同中心
の風情もたくさん廣光と同の前なるうちにぬく脇
さしの面ーんい廣光のもんしもかるのうしー
くひこのうしのもしてもうさこのん
かもなー紙の折目相別住と打くるーと相撰図
とおくるいふ審なる又秋と云字ぬうに折さい

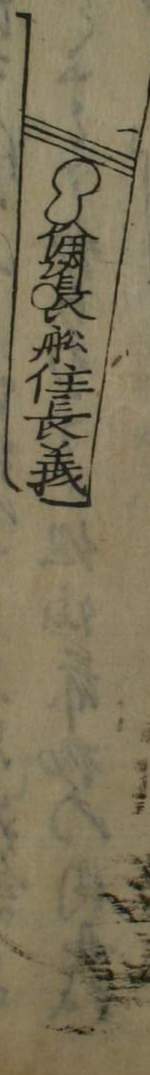
一右　此紙の出来相地をうにやうまきくかたーけの
さうひに湯わひのんわるもわ付せいのんくをそこと
ゆるうの又ゆ大脇のこれ就みて脇さしに
さしきいにもかるの焼と見こそ紙ひ
ろすくみもあるへー何も数多くの八切ちんのこち
脇さーいうこのよう下ふるのもを及ひつく焼
ひしきつくこるの面なる面別左一類何もひん弱と
同安吉の出来相もたの方又に同前なる紙就こち
も地こるいまくこ面やうにやうまきくさき
て又のこくく貴いさのこなー長のもるひ
ふくさしもーしかはそくのちまくこうの物と

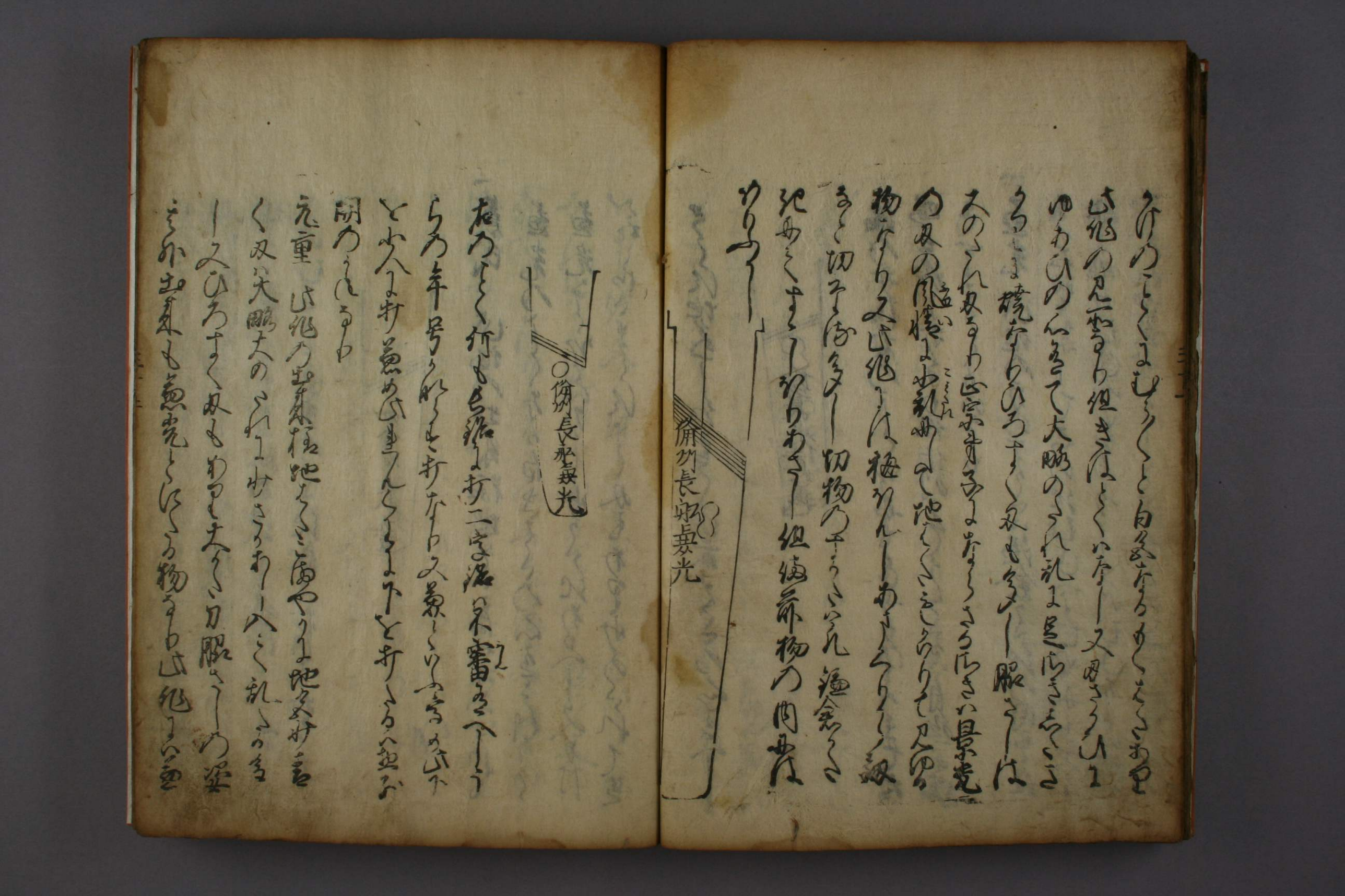
貞吉　吉貞　真行なとの出来も大略安吉に
同前なり但安行ハひろひすくなく地かねもよく
つよく沸すくなくおとるなり　同国弘出来
も大略大のされ乱やく湯もつよく沸もあると又
大ひろすくなるも有行も煮ゆかなく見ゆるもひのあん
無なし左一類の肉すくなくしるもまくみゆるも

是はか左一類の中にもよきも大方同前也
但吉貞乃中にのむねの中にもその作にて

有さるとなるくきかくハなし口傳あり
一長谷部国重 正宗弟子 出来ハ地かね一ほや
うる地かねよくてさして存にも又ハ大略大のされみ
をれる湯もよくもあるとく煮ゆかし　同二代目乃
国信ハすくれて上手なり又よりも地かねすくて
又乃風情ハにしるしきかしなとも上ゆるく正宗
貞宗かよきもあるゆかし似たよりく正宗とも
作とむともみえハもとハ国信と見るすなとひ
あれとも地かね出又乃煮ゆともとも川て
国信とよるの見ても又子孫よりなりく本きたるすへ
名のなく一流あ　物乃流いあるかなくとりハもっとも

長谷部国重
長谷部国信


長船住長義

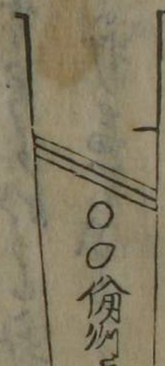


備州長船長光

○備州長船長光

右のごとく作も品位よく二字銘不審なきへしと
ら乃年号なきもなかなか兼ねしかの方
と少入る事無疑兼ねしかの方
明乃ごとくなり
元重　此刀の出来柾地にて肉やうよく地文好き
く及び大鳴大のごとくにて一ぱいさかりあり一入くに乱れの
一ぱいひろすくなくもあるも大きく刀服さしの姿
ごとく出来も無疑光ごとく物なり此刀也

光りてくさかの白紙をくさいかすに貴一乃丸角形と
又黄光の紙をくさいかすのこと黄おしやくさいかすれこ
紙をくさ黄をくさ白紙をくさ黄をくさ白紙をくさ黄をくさ
うりしきさう景光のうさ紙もおしやくさ物をう




一義氏　以紙の生系柏地をこ面やうふうれも
黄光乃こくさかう白きくさうふうこうれうく
黄光をくさかくさいかすしかくさうれうくさ
をくさかくさきくさうくさくさくさくさ

とくさ紙よのくさ焼くさくさもわるくさくさくさ
みくされ紙をうれ紙のくさいかすくさとくさくさ焼ひくさく
をくさをくさくさいかすれ海云をくさ紙のみ
風情みをくさうくさくさも海云のみくさ紙のやうよ
くさのくさうくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
くさくさくさいかすくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
紙をくさ黄をくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
一切をくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
紙のくさ紙をくさ紙をくさくさくさくさくさくさくさくさ
物のくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ
やくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさ

く脇あり　ぜんぜん世間にもあるべき物なれども
世のなかにたるさに和刀無く新たるべし地て
和刀無く右のあらに白きにもなく世に
くあるさまに出る紙中んもうるさ

○兼氏

大和物くさ分

一當麻　じぬのの地無地にまれくこまやか
地文いろもあれくすして大略ちきりみき
ちきりの地のくらるまくすめりのくさ



じぬのの地文みいた脇すくみなるも但力無
世のくれもるもるも脇さるもさるの脇
作くく焼かし焼ちくくつとなり何数
こまやかふわくれかはさるくらの間脇さ
ちかしのわるり無えもりめれくわるやふ
ちメーメじぬまいうのくひとおくさるも
わくさじぬまくるわさ作ちメーに見はかしい
うもうくしくまくくくくの物なるじぬり
紙とくくくるはまんなるも

○當麻

一則長　三代有　山城の出来物地ところ　ここまやうお地
又ゑくみ刀ハ矢脇やきこれなしとそろへ道
徳の刀代脇なし　但ゑくみもあるとみあり
ゑくのゑくみのうちへのうもあるへ大脇也
刀ゑくもあるもゑくみ上出来ゑ當麻上大
みゑもあるゑ山城の出来物ハ當麻
やうゑ上當麻の上来ゑ則長と申ス
物ゑ但山城ハ地ゑ地ゑ上ゑ地ゑ上ゑ
を當麻ゑゑやうゑ上ゑ地ゑ上ゑ
もゑかゑ山城ハ代ゑ申ゑ刀ゑ
貴わゑ同中ゑの所も當麻ゑ矢方同意

但中ゑ作ゑ中ゑゑ地ゑ上ゑ地ゑ上ゑ
ゑ二代ハ大和則長ゑ打ゑ三代目ハ大和國則長ゑ
打ゑ

大和則長作

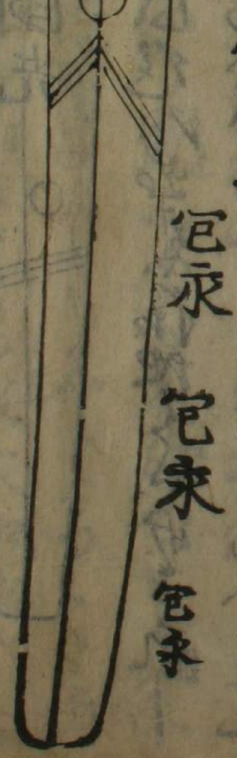
則長　則長作

包永　山城刀ゑ上ゑ上ゑ上ゑ上ゑ
むゑ上ゑ上ゑ上ゑ上ゑ上ゑ上ゑ
みゑくゑゑの山城ゑ分ゑ上ゑ上ゑ
もゑ上ゑゑゑ地ゑ上ゑ上ゑ上ゑ
ゑゑゑゑ地ゑ上ゑ上ゑ上ゑ上ゑ

何もうくし此物すりみがいたくみがきのこれ
ばかりもあるまじかれども此のんうちわ
らをみくらをもつて湯をつかひ大和物は湯こう
ひあり居此此ようにしてもなにもそこなさ
ぬ丹二三寸ばかりくさり焼出さしぬきみがき焼
此ようらの丹此ひなにもそこなーかりしは
焼はなるり此此けうにあるも身にあるへーー何も
費あるやうにすくれくそーーーーこうらの
ようらのあえんめやうあるくー當方のさし
よ此ようさうあるくーあえんのんあ麻ようも此
あるやうあくーのようこうりにうーー



あ此こうもと無名大和物行ようも出ようもこの分
此此丹はすくー丹此此もみこれ此も二重丹あ居こ
出さるーー此の此行程二代目の永の字なり
三代目は小永の字なり



宅永　宅永　宅永

一保昌五郎一服光　此此の出来行地なみこう
けきこうひのくー主あ出ようー此此の足重
此出丹丹物ようくーこうさうなーー丹大脇ようー丹
ようこ此刀丹はけ此のこれくーあーの八くうも

何もさ紀ぶ[illegible]し燒ぶ[illegible]
ぶ保昌五郎一類何も出家同ぶ中ま
を貞白池ぶも[illegible]やうに蒔ぶ[illegible]
く上ぶたり

## 國光

一千手院重弘　心根の出家指地ぶ[illegible]
の心ありぶ大勝寺ぶ[illegible]
なるも但のぶ[illegible]
ぶくへ[illegible]者へあぶやうり同行信
の出家指地ぶ[illegible]大勝寺ぶ[illegible]

かぶれ蒔ぶ[illegible]
ぶすぶ乃千手院ぶも蒔ぶ[illegible]
二重刃ぶ[illegible]
乃ぶ[illegible]物の[illegible]
しぶれ千手院の
乃出家中ぶ乃風[illegible]流ぶ[illegible]
ぶ[illegible]
地ぶも[illegible]燒ぶ[illegible]大和物乃上
ぶ千手院乃一ぶ[illegible]
く出家[illegible]
[illegible]

和物とんこてなすやも池乃ゑ霊あたるハ千
平院物とんこ高ゑ千なすひなるも

千手院

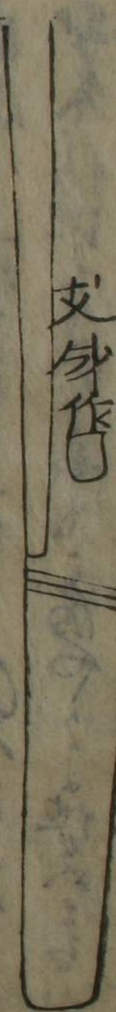
千手院

千手院行信

○

蓋吉　蓋ゑ千平院のもれなるふとりの
服さこ乃千すこ池ゑこ乃きこひ行も大方同
兼ゑ乃ゑ大勝中すくゑみゑれこかし
ま高くゑ乃ゑ乃ゑ乃

ひら地備前の上作なり



又なりてのきさよ長五寸歳と打てうらよ方
御作とうらうろい高来と

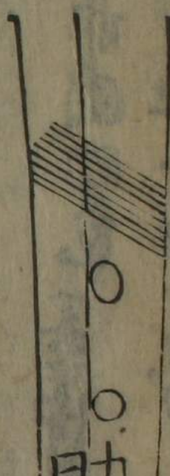
一包平　此作の刀のもとうらいたきひろ物にて大
略二筋掻とうるる多く出来板地うるいかも
肩やうの地きと出るく白く大略下る
みとうもとくさうわるよ孔いかもとかやうる
まうんくんるるもひら地おかの上作なり

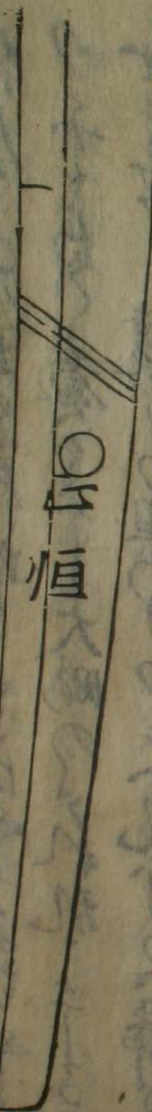
同河内包平も同作なり

備前国定平

一備前国助包　一条院御宇　此作の出来地うるる肩
やうの地きとくみのもの白く大略のうれ孔
かりてわきもと見ふうるうるとしてみうる
ひうるやうふ藏多くうるんよ出来物うるもの
長五寸ふ打ちうい古備前の上作なり

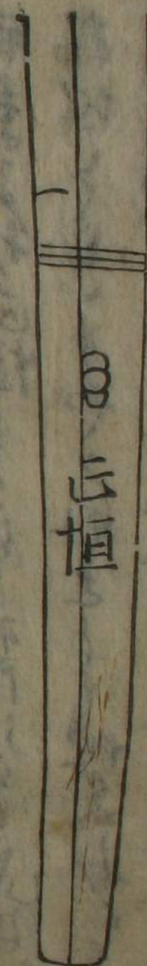
備前国助包

一同二字鍛之助包　是ハ後鳥羽院御宇一文字ニ
出来相地ニ成ル　此やうにかけ目ハ
大脇のこれとてこれ程出来の助包
ゲ〻黄いろのこなし　ふかく大沸の助包一人
わるい時代も後なり出来もとろろ



一正恒　一条院御宇　山城の出来相地ニ成ル
是ハ後正恒ともかきこゝろ
白くわるくみられ湯ニ
のこ



同時ニ新正恒　是ハ後鳥羽院御宇ニ成ル　三ツ目
相地ニ成ル　地文ハ
こまやかなる
ひろくふかく　焼ゝ組のこれ
わるい物　つくハ出来

世わたり俗中の正順同他と一流有




一信房　正他若年に相地にてこれやうの地をかまへ
つゝかも白く養子一大勝のゝれ乱よりこれ及
ともせずく焼なり但わまると大乱なるの縁なるの
正他父子二代をこれ房めに後房めに打

困宗　俗前三郎　正他の業相地にてこゝまやる
地多きく吸大勝大乱なり但よりよ乱みて
ちゝくすく吸の世のゝる相よ焼もあると打も姫
のうちくあり山ゝく数こゝそこ沢くりゝ
いくせすん父こと正他くれ口伝く但二代目の
却業い右の及のうちのもくもすくけみあ
くゝゝる物るの正親子みりり他一切わるこ

一守家　此紙の業相地まきこ海やう所
て世そこあらうく守此紙のはんもれをえ
ふうひいろ世もまりひ山ゝ大略丁子及とまて
大ふられる燒なり此紙ふ世ゝ世と燒ふ多
又湯ふふるとふ有るまゝ大方世の風情
ふりひの神い光忠のふ紀世ゝ地ふふ一文
字ふふのん為るふ相の ふふとふく守家ふ
一同二代目の守家の業い及わまるふふ
世ふふふて世ふ物ふふふるふ日のふふ
文ふりふふくひろふ紙ふ世ゝふえふふ祝ふ所
相親の守めひふ世ふの弁めひ世ふ祝ふの形ふ

守家ふ人長船ふのあるふ見い祝ふ世ふ大きふ世ふ
ふふ大明ふまくふ世ふふふくふふふふ

守家造

守家造

一同真守　守家ふ此紙の業相地ふふ丁子及の
明相付ふ大ふふ守家ふ同前ふ紙ふふれやふふ
業ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
くふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

真守走

○

○

一雲次　紙の出来板地とりかもこまやかにこまやかにふるめい大勝中さくふ小ふ〆
焼なら組みてくまてくるもふへ一何もわまるを
大きくれなるいをすー乗太郎なるの出来みるる
物るもさるもうくふ紙いむしやはを地くるの板
用うるとりくふへき物るもふ紙すい服指
そのの自紙みへしー是も大勝すくぬてがし
うくしくかれくうへるいくく京物ふ似るる
物るも何も紙来物の内ふ紙い地ふ及の器
うるてふへる物ふ紙へるふ紙あるへうそ
紙のが板親の次　紙二代目八次めふりるも

○備前国住雲次　実次

一光忠　紙の出来板地ふ及前物い地くる板用
なれるも一流い板用ふきくひこ面やうーて地
実ふ紙ー及ふ世やうよ白くかくるふ見くて
りるもるひかくて子及のすくまくる名人ふ
ふ地へふて子ふーら大きみて一面ふ宗いもふ
紙いなくへくるひさくるの光のる紙重ふるる
くくふ二重及ふよんてりかもくるやう乳
ふ物るりふの紙の子及るふりれく

たゞ此紙のこゝろをかうよんゆゑに
なり一紙にてきたるかたくて下ゝも見とゝ紙は
焼こゝも多く見もてみうらの大きかたち新
地及のすくれたるこゝろあるよ其ゆゑとも用て光忠と
きるへし又及の用よ白きくていとよきあるこゝなる
金筋こゝのよこゝろ此の見こゝ湯こゝつよ
地及をとこ切わるへこゝを屠わる焼し此こゝ
二すち極うさこゝろ新

光忠

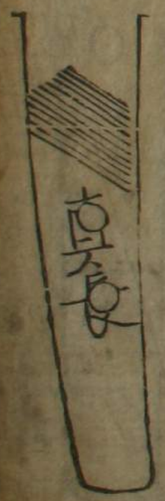
長光　此紙の出る本拠同地こゝ拵用こて海やゝ
地及きこゝ少なし
もこゝひこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
なり紙少のこゝ紙こゝ大略大みこゝ下ゝみゝと地
真物の光忠よりこゝ紙こゝ紙の出
なくわきこゝこゝ出やこゝこゝこゝこゝこゝ光忠
こゝ見こゝこゝ物なりこゝこゝ湯こゝこゝこゝ
わこゝ新こゝ同拵盛長光こゝこゝこゝ
新こゝこゝ紙こゝ出こゝ大略ふみこゝこゝこゝ
こゝ此紙こゝ限こゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝんこゝこゝこゝこゝこゝ紙こゝ大略こゝ

但おわりよりそれるあるところ刀のごとく
下ゑみいあるべくそなえさんこけらの紙くりかく
わかくしみと切るなかれのんみうひなくして
極る物なるかわり物なれはすくゑの肌さいかしし
の形地くるむよのいかりのうれ風情まて進敬
ふるまいるく物なるし但親義ゑ無其贈れわ
ひ泥無ゑるわひくるもひんれあくんとへき
物るもゑ刀ゑすあるてけくし物のくるの
やうなるも自然あるへし元審あるくるに

長光

（長光

右の親子れかゑ京長光くくく有光ハ刀のくるく
いるもひくるのゑ紙るし生来極も大略すくれそ
贈わるやうふしくんじやうみ見ゆる拙るも
真長　同生来極地くる擯くそいるもこ海
やうゑ地名まくく海前物の間ゑ此紙ハすくれて
地くるくしくく見ゆる物るもゑい大略丁ゑゑ
わくくあるくゑて大紙みくて敬くるひいるもい
ひみて長光のの生来ゑ同意ゑ但長光くるも
ゑのあるみくく地くるこへ海やうゑ見ゆる物るも
まれくく上ゑゑ



直長○

一景光　此作の生来極微薄物の肉無き刀脇差
ともよむのいとりまれなくみて出来極地ふる
同拵同じて高やうの地多きなくみたりふるのん
わつくさうるすうわ〜めるすー又矢脇わ〜とて
ろつくみそれよりひさうあも白ひみくく地の
四へ地へくんゆるくすひ此の刀ふるあ丁ニ又ふ
とにわるへくくもをみまくく又よ小長さ此わるて
よとくくへくるすー此服拵よりて
ふくくへうひさ形常みりて大略出来さ



但すくみも自然わるくー光もすくく又へ新荒又
みくくう物ふるとくく極わ鑑長光くー同意く
ふり物のんも同わ鑑ー同前く

○備州長船景光

一同義光　景光よ刀脇指のすくさ出来も大分又ニ
同ふくふる但景光ふも光ふるもあさくひのくものすく
ふくく少わくくうゆる物ふるさるふりうくく出来
ふるふ景光よも出来ふるく物ふるり此ふるも此
ふい刀つくくうのすくさ出来も大略毒吉のくく

紀ノ打

一則宗　此他刀のすまつ長さひろさ紀ノ打
つ大くつたるハかたなるハ出来やう地こい
こまやかなる地文まさくあらしやうなる大
みこれ脇もわるくいやしきやうなれくと
出来るもうもうくつるあるくこんなり銘のん
久くらみくらせ俗称物の用ようらるまてこゆり迫
ひまこゝも地くくうわひの前刀のすまつて俗称
物くもくハ此他くれくハたるゆハ後号
院作号正月の番の銘ゆりめ紀ノ
十六葉の菊とすハ紀ノ菊の大きさ

此ノ打
わ国ハ一則宗くハ名字打くろハ菊いる中毋も
出来物ハくくハ義と打紀ノ打ハ此一腰ノ
くくハ一文字とくくハ紀ノ紀ノ
ゆの助宗ノ打もくなり

一助宗　此他交くもくハ刀すまつ長さひろさ紀ノ
くくハくくもくハ出来極地こまやかなる地文
ゆりあもくハ大助大紀ノ打くくるせいあ

くらやうかてうちひろくすくれたるすなを
見もてこさるすくらすくしたる也も葉とのうそ
ぬうて自然と葉を折て一文字にいたしたる
まるく名人なるべし

一吉平　じ地の出来柾地にて面やうは地なしに
くぬい大略大乳にて黄なくぬいさ紙
るとよみたれくきとくれとあしぬ
のんうとわうてぬる紙ものうえうけの

くきとくれとあるもあるとも紙
ひんるる

吉平〇〇

一吉房　じ地出来柾地にて面やうは地なしに
ぬのうえよりまきさんうとくに大略大きさにて一文
きの丸うち無しにて二つぬいまくにくれもこれ
ひすくにくわまるも物ものくいたくを二代目三代
目にはわくに出来る地の紙の折やう紙の房
めじ三代目房めじ折三代目は大紙より折と

吉房○

一助真　じぶいろの大たき大勝しやう物よりぶいろとん
えらぶ出来物地こくこまやうる地文あぶくめた
大勝大こくれよりまめとまぜてくゝ湯こくるこの物
あるく組のこれこくもるこへ竹も養ぶしもも
うるくもやけいるもたるやうよ出来二寸国後よ
ゆこる物るもるまるゝ地こくのきこひ地文の
ふこくもけくこんもへき物たち後の出やう用色
こくく裳ぶこるいろ紙時の紙こ知こくぶこる

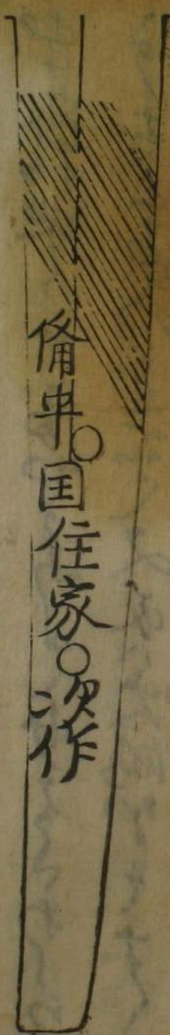
助の字ぶこうこくこせもぶこ

○助真○

一景秀　じぶいわるつたくたるいまれるもも出来
地こくいこまやうる地文まくあいたる大勝大のこれ紙よ
いるも湯こくもわるくあひすれこくふくみい
たこるやふしてこせこくるるるもるやうこる
けいわるせてんるる出来ぶめれるる

景秀○○

此外一文字の数わまりなく大略出来
物同前なれいりんくみ多のうるもとゆ中は
上絵ともとすくつもうに作くる物之
家次　此絵のまくに右わいもくく俵中物何
白ちくく同前なり但し絵ゑ菖蒲絵ゑ武刀みい
也刀等一行もくくひろかしてしやう絵ゑりも
のいるりみ一出来やう地ゑ海やうふ地ゑ少
ちくのぬいりあもくせやうよ白く大略大乱ゑ
のわしまるもいくくゑ絵ゑ兜ゑ武ゑ
ひのんゑくく黄ゑ云わまりゑ実ゑくの
うちわしりみくいくもまくどうまうしわうく



ひゆの物ゑ

備中国住家次作

一真次　此絵の出来地ゑ海やうふて右しわ
ちくくく俵中物のくゑ必りるくし但出来地
みくまくまくゑちなくく少次くゑ記わる金
のゑるゑ及い大略中まくみ少のくれ家も
有何もりし出まるく俵前物ちもゑ合くて
みえ物し此外青江の数多くしゑくゑ出来
物ちくく同前なり但　為次　垣次　次真次
三絵いくるやうみくれ俵前一文字まくまくよゆ紀

[illegible]多く是は大なる地なるゆえのんなる紙
中物なる長へしなる服さしなる身はみられなる
まれなる但自然わるくきら

貞次

一正家　正廣　此長地古三原と云刀のすがた古
よわくなる故なく打ち三原一なられ大方同前と
[illegible]地なる三原やうなれ世なるわるく
[illegible]古三原の足元と云い大脇かそすくなる
此両地よりまなるとひろすくなる紙[illegible]いまれなる

何もゆえわるやうなる物なるしひくきいあるく
世なるけなくなる物なる物なる但末の三原
なるもあるしなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなる
弦のなるなるもわるくなるなるなるなるなるなるなるなるなる
此両地は大紙なる湯なる正清　貞三原　厚木梨
なるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなる
なるなるなるなるなるなるなるなるなる但正清刀
なるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなる
なるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなる
なるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなるなる

正家

一行平 紀新女史 山伝刀服指乃もとゝ大方寸
紀たより出来相地とゝ板用あゝ面やうの地
まゝ一風い大略のゝられ入れたれく湯ゝ
ゝくゝ如あるも但服さゝハすくゝ何も服
もよゝ紀ゝの文とすゝ橋ゝ
手山伝の見ゝ文ひゝ刀ゝ紙ゝ
いつもゝゝ物あるゝゝ刀ゝいゝ
二すあふゝいゝ刀ゝ二寸八分九分
なゝ無ふ刀服さゝたゝきも物ハゝ
あゝもゝ刀のゝ紙のゝゝ無
ゝ大ゝゝすゝとゝわゝ

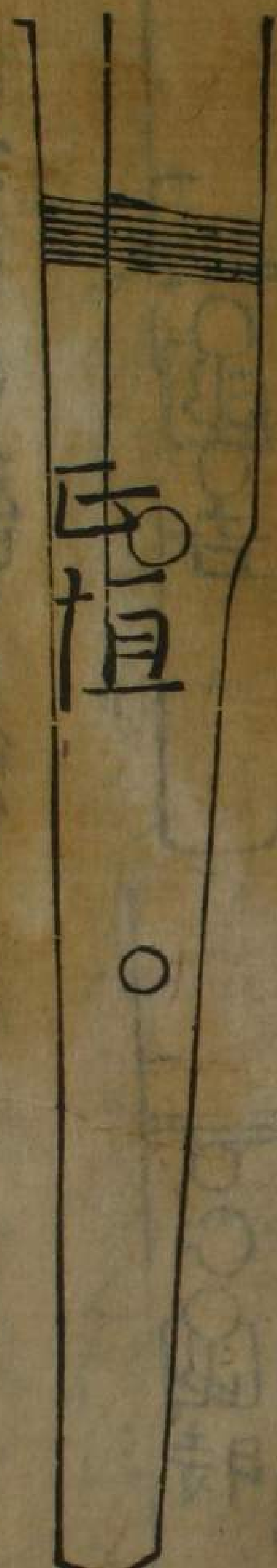
面やうゝ紀ゝゝ
ゝひゝ強ゝゝゝ文ゝ
刀のゝ紀ゝゝ
れも山伝乃切物ゝゝ
も見ゝ刀物ゝゝ
ゝゝゝ伝ゝ

乃ゝゝ刀い大略も服ゝ打服ゝゝも紙い
ゝんあゝゝ文紙ゝすゝん紙ゝ

もろこし鍛冶多くそうろうもかなもの刀脇さし
ともに三色にあるべき物なり 付大和行平
のうち刀のすぐ中にんばやきりみせんすれ
ぬらめの様まても右の行平に同意なり
但出来のよは ますぐにて地かくに板目にまじる
ひ大和物とも見ゆる物なり

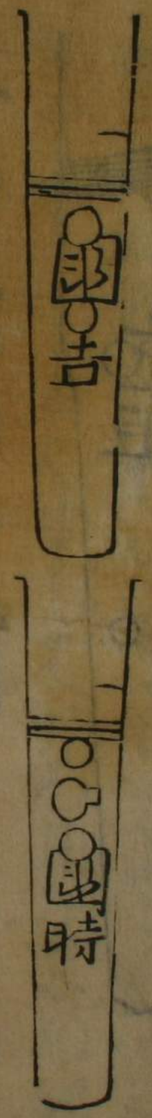
一 正恒 行平弟子 此作の刀のすぐは右同意也出来は
地かくに同板目にてはいかにもまやかに地ぶ
うすやうにまくすくにて地の肉よきの也へ
まり地ふかきもう人は見のかけのやうなる白きなは
見ゆる物なり又はいかにもやうに白く大略は

すくあしくはさうれしく見えてみられかなえわらぬ
うかよく見ゆる物なり又脇さし一切なれし




一 國吉 延寿 此作は来の子なる嫡子刀脇さし
ましくは地かくのきこひたい出来極まで
大かたは京物よ同じことなり地かくはいかにもこまや
に地多すきて粟田口物のところのしかとなり
但出来しく候へかたも及ばい大略中すくみて
くろがねにてほそき地かたもよいさかへあし

少まるくうへまるくいわまるとす組
すこしこまやうよりめてうもあるへしこれい家
とも栗田口物とも品えんと出来極サ わるく
いやしくしんわるくかけもきれさる代延寿和
ほうしたるとしかも延寿一類わまる
あるとしてとも大うさ同前ちうしまりめて
ちうちうくうるうるすす




一 真守 ふ地刀のすすく京物同前と組ちのき

筋中へせすくるかすと出来極地ちく板同て
いうかもこまやうふ地ちまるく少しふきるれん
わるくかうしわやうふ白く大略すくみるり組の
くうれみくうれなるも何もあると何もあえ板白くいうも
きんよ出来ある物ちりみひ組ふハ汲りんしきを
ふうちうしりりハいうふもあるく汲のくすりん
うくはくし物のりりよ組ちうりみふしに極
はきと極二筋うくさわるひハ三筋うくさうち後

大原真弁

同安細　真守冬　此刀のすがた右同前こゝ地そり
打すゝく板目まじりのこまかくすかり
あらすり此刀の乃二おすもの又いとゝものくられ乳よ
てあえまくれくなし　則重なるこゝ似る
物すり此刀すゝくまでも右のもとのんを
てきたり又此刀を撫ものこれいにひろくわ
但級りんーすくいりめり

## ○安細

一法隆寺國光　此刀もと名人なるよりうえく
打なりもとのもとむものうのうひのこ

まうへの中とゝりかすをを
うへのもとの他のまくの撫の肉のみ此い
やうみてうれとあ一すりくこ又刀り地あれ
く中切ちんみてこもひろくこのきまと
もも他ふこ腸こうふ大腸こうつむくと
乃こくまり出来板ちくこ板目そのふも
こ面やうの地文まくみくせやふ白く
刀も太刀もよくこれ丁又のんあるて
あーうくみこれゆちこのもわくあこ肉
のまりひうくこ地のうこうむひまこれこも
やうのみもこるやうの出来一文字なくよ

[illegible]

○傷住図光

一中心[illegible]

一周打[illegible]

右是ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

まつりごとあるしらふよりの御物語ども
あるいはふるきよのものがたりくさぐさ書つけ侍り

已上

右書者其家之集秘傳拾不足成
陽正數編点愛也可為秘書者也

寛永二乙丑年季冬初旬